

アンケート実施後の方向性

アンケートの集計・考察を基に、協議会における今後の方向性について。

牧町の18歳以上の自治会員(18歳以上)に向け R7 年 3 月に実施した「牧町をとりまく道路環境に意識関する意識調査」の結果を受け、見えてきた事と、今後の対応について。

《 今回のアンケートから見えてきた事 》

- ✓ 一般に、65歳以上の高齢者の割合が人口の 21%を超えると「超高齢社会」と言われますが、牧町では、60歳以上の割合が 55%と実測値として「超高齢化社会」に入ってきています。
- ✓ また、このように超高齢化社会となってきたにもかかわらず、町内で食料品などの生活必需品を入手するお店が無い、町外への移動が必須ですが、町外へ移動するため公共交通機関を利用されているのは、13 名/407 名(3.2%)とごく少数で、多くは「車(相乗り含め)」による移動手段を取られ、「車」を利用されているのは、347 名/407 名(85.3%)となり、生活を継続するには「車」が必須であると言えます。
- ✓ また、牧町は、県道26号線沿いに東西に広がった地域となるため、県道26号線の東西町境界間が約 1900mもあり、主な居住地域においても東西約 800m、南北約 500m と広く、町内における主な移動手段についても、「車」が 143 名/411 名(34.8%)で、「徒歩」167 名/411 名(40.6%)、「自転車」76名/411 名(18.5%)となり、町内における移動についても、車や自転車による移動が 219 名/411 名(53.3%)と半数を占めている。
- ✓ このような中、牧町をとりまく道路事情に対する「不満点」を確認したところ、「満足」と答えた方は 53 名/411 名(12.9%)に留まり、約9割の方が道路事情に何らかの不満を持たれている。
- ✓ 県道26号線に関する不満点としては、「道幅が狭い(50.6%)」を筆頭に、「大型車両の通行(7.1%)」「対面通行できない(4.9%)」、他に、「歩道が無い(1.1%)」、「歩行車の安全性(13.4%)」と滋賀県を南北に結ぶ主要幹線道路(浜街道)であるにもかかわらず、歩道どころか、センターラインが無く、乗用車の離合すら困難な道幅しか確保されていない事に関する不満点を 270 名/350 名(77.1%)が持たれています。
また、県道ゆえ 8.9%の方が「車両速度が速い」や「交通量」に関する不満を持たれている。
- ✓ 町内を網羅する市道や町道についての不満についても「道幅が狭い(63.3%)」を筆頭に、隣接する「深い排水路(11.7%)」や「電柱が多い(0.9%)」「路上駐車がある(2%)」と道幅が狭いことに起因する不満点を挙げられ、町を南北に分断する「県道26号線の横断(3.2%)」の他、隣接する湖周道路(さざなみ街道)からの「迂回車両が多い(7.4%)」事を不満点として挙げられている。
※ 牧町は生活基盤(農業基盤?)が、「船社会」から「車社会」へ変わったことで、水路を埋め立て生活道路を整備した経緯があるため、町道脇には深い側溝(排水路)が残されている。
- ✓ 全般的には、「道路の安全策」に不満があると答えた方が 62%を占め、次に、湖岸への抜け道として利用されている事への不満が 26.4%となっている

- ✓ なお、不満点として湖岸へ(湖岸道路へ)の抜け道として挙げられていますが、県道26号線の渋滞に伴う影響について、約半数の方が影響を受けたと答えられており、約30分以上の遅延が発生したと答えられている方が、約35%。抜け道を利用し、30分以内の影響に留められた方が47%おられます。

この方々を男女年齢別に確認すると、69歳以下の男女で約7割、70歳以上の男子で約2割の方が該当する事から、このような渋滞は多くが通勤時間帯に発生しているものと推察できます。

- ✓ これは、牧町を横断する26号線はセンターラインが無く、大型車が通行すると離合する事すらできない道幅の箇所がある事に加え、交通量が多くなっている湖周道路(さざなみ街道)における工事や交通事故に伴う通行止めや交通渋滞が発生すると、ナビゲーションの迂回路として主要道路となる県道26号線が選択され、交通集中がおこっているものと推察します。

※ 町内を横断する県道26号線の渋滞は、牧町の様々な市道・町道をも迂回路として渋滞させてしまい、緊急車両すら通過する事が困難な状態になるため、町民の生命を左右するような状態に陥ってしまっていると考えます。

- ✓ 牧町の超高齢化社会は、公共交通機関を遠のけてしまい、自ら車を運転できなければ普通の生活すらできない状況となり、道路環境は、ある意味「陸の孤島」状態と言えると考えます。
- ✓ このような状態が、若い世代の町内への定着を阻んでいる可能性も考えられます。

《 今後の取り組み（ 方向性 ） 》

- ✓ 今回のアンケートでは、牧町を横断する県道26号線のバイパス化についても確認しました。
- ✓ まず、質問10では、十王町～加茂町における旧県道2号線(朝鮮人街道)のバイパス化による旧道周辺(町内道路)の生活道路化とバイパス道路周辺における住宅、商店等の増加により、活気ある環境へ変貌したことを例示し、牧町を横断する県道26号線のバイパス道路の要・否。
- ✓ 質問11では、中部湖東幹線道路の建設に合わせ、牧町のバイパス道路の設置の要・否。
また、町内の市道・町道における排水溝を地中化し、道幅を広げる拡幅工事の要・否。
- ✓ これら3点について共に、「必要」「どちらかと言えば必要」を選ばれた方が約9割に近くこの
ばり、牧町民の総意として、「県道26号線のバイパス道路」「町内の生活道路拡幅工事」これらの整備を進めていくべきと考えます。

※ 参考 ※

- アンケート入力を行っている中で、過去からある道路建設(牧町バイパス A ルート、中部湖東幹線 B ルート)に関する内容を断片的に捉え、ご意見を頂いている方が散見されました。
- また、問 10, 11 において「反対」とされた中で、家族分(数名)を1名の方が記載していると推察できる回答(同一ペン、同一筆跡)もありましたが、18歳以上の全町民を対象とさせていただいた事で、牧町をとりまく道路環境に関する皆様のご意見を抽出できているものと考えます。

《 今後の取り組み（具現化に向け） 》

当協議会では、中部湖東幹線の建設ルートに対し、牧町の町民の総意として出された『県道26号線のバイパス道路としての機能』を実現する事を目標として検討を進める。

最も重要な事は【牧町のこれからの発展に寄与できるか】を予測し、検討・判断していく。

1. 「滋賀県道路整備アクションプログラム 2023」において計画されている『大津守山近江八幡線【(都)近江八幡能登川線】(水荃・大房)』建設予定コースについての再検証を行う。
 - ✓ 牧町を横断する県道26号線のバイパス道路としての機能があるのかを確認
町内を横断する県道26号 → ・ 県道認定を廃止し、生活道路化できるのか
・ 県道26号線と生活道路との分岐点の構造確認
(分岐点の構造:容易に生活道路へ入れない構造)
 - ✓ 湖岸道路における事故や工事、積雪時等の通行困難時に牧町内の生活道路が迂回路として機能しないか。
牧町を横断する県道26号線のバイパス道路としての機能が無いと判断した場合、No3へ取り組み方向を移行する。
2. 現在の建設予定コースが牧町を横断する県道26号線のバイパス道路としての機能を十分に果たせるとした場合、現在の都計審において計画された道路の早期実現に向けた課題解決を進める。
 - ✓ 牧町における県道26号のバイパス道路としての機能の実現。
 - ✓ 牧町の南側を幹線道路が通過する事に伴う、小学生の通学路確保や、農耕車の通過等、地元で生活する者だからこそ判る問題点の洗い出しと改善策の検討と提言。
3. 「滋賀県道路整備アクションプログラム 2023」において計画されている建設予定コースが牧町を横断する県道26号線のバイパス道路として十分に機能しないと判断した場合、バイパス道路としての機能を実現しうる代替コースの検討を進める。
 - ✓ 超高齢化が進む中、地域活性化につなげられるよう周辺地区と徒歩(散歩)や、自転車によるふれあいが生まれる安心・安全な道路環境の整備。
 - ✓ 自然豊かなびわ湖岸に、さざなみ街道と中部湖東幹線が交わり、岡山園地の利活用を含め、地域にも、訪れる『旅人』にも快適で安心、心地よく活力ある地域づくりを実現。
 - ✓ 【(都)近江八幡能登川線】としての白鳥川以北に向けたルート選定における影響力を持ったルート選定を実現。

☆ 牧町の住民のみならず、周辺地域の活性化に貢献できる道路づくりにつなげる!!